

# 「御挨拶」

防衛大臣 中谷 元



明けましておめでとございます。

防衛大臣の中谷 元です。

陸修偕行社会員の皆様におかれましては、防衛省・自衛隊の活動に対し、日頃から力強い御支援と御協力をいただいております。防衛大臣として、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

昨年10月、3回目となる防衛大臣を拝命いたしました。各部隊で仕事をしている隊員諸君とともに、国を守る、そして防衛という仕事を共にできることを大変嬉しく思うとともに、改めて身の引き締まる思いです。

新年を迎えるに当たり、この場をお借りして、私の決意と抱負について、3点述べさせていただきます。一つ目は防衛力の抜本的強化についてです。

今、我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑なものとなっております。インド太平洋地域では、軍事力の拡大によって、力による一方的な現状変更の試みが押し進められ、我が国周辺でも緊張を高める事案が急増しています。

こうした状況の中で、今後、インド太平洋地域、とりわけ東アジアにおいて、戦後の安定した国際秩序の根幹を揺るがしかねない深刻な事態が発生する可能性が排除されません。我が国は、こうした動きの最前線に位置しており、我が国の今後の安全保障・防衛政策の在り方が地域と国際社会の平和と安定に直結すると言つても過言ではありません。

国民の命と暮らしを守り抜くため、岸田政権の方針を引き継ぎ、防衛力を抜本的に強化してまいります。

そして、防衛力の抜本的強化は、同盟国・同志国との連携の礎ともなります。いざという時に守り合い、助け合うという強い関係を同盟国・同志

国と築くことは、我が国の平和と安定に繋がっていくと確信しています。こうした考えの下、トランプ次期政権との間でも、日米同盟を新たな高みに引き上げるために協力していきたいと思っております。

また、力による一方的な現状変更やその試みに対抗し、我が国の安全保障を確保するためには、同盟国のみならず、1カ国でも多くの国々と連携を強化することが極めて重要であり、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

二つ目は、人的基盤の強化です。今日まで、自衛隊はただひたすら「国を守る」という使命を果たすべく、懸命にその職務を全うしてきました。

「人は石垣、人は城」。防衛省・自衛隊は人の集団であり、防衛力の中枢は自衛隊員です。防衛力の抜本的強化を実現するためには、装備の充実のみならず、自衛官の志願者を増やし、士気を維持・向上させ、優れた人材を安定的に確保し続けなければなりません。隊員が働きやすい環境作り、そして、優秀な人材を確保することは、待ったなしの課題です。石破内閣の下で、昨年、自衛官の

処遇・勤務環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する関係閣僚会議を新設しました。関係省庁も交えた議論を経て、取りまとめた方針に基づき令和7年度予算案に必要な経費を計上することができました。

防衛大臣の使命として、これからの防衛力の担い手となる世代が、厳しい任務にも安心して従事でき、誇りと名誉を得ることができるよう、令和の時代に相応しい処遇を確立させていく覚悟です。

三つ目は、国民から信頼され、愛される自衛隊を作り上げることです。防衛力の抜本的強化を進めていくには、自衛隊に対する国民からの「理解・納得・共感」が不可欠です。

いかにすれば、国民の信頼を得ることができるのか。それは、隊員一人ひとりが「正直で、謙虚で、素直な心」を持つことだと考えています。私のモットーに、「巧詐は拙誠にしかず」という言葉があります。ごまかしや偽りはつたないけれども、誠実で正直な心にはかまいません。常に修練あるのみです。また、浜口雄幸元総理は生前、「行くに徑（かじ）に由らず。常に王道を進みなさい」という言葉を残されました。

こうしたことを肝に銘じ、隊員の先頭に立って頑張っていきたいと思えます。

こうした取組を前に進めていくためには、厳しい安全保障環境や防衛省・自衛隊の活動について、国民の皆様にご理解いただくことが大変重要だと考えています。

陸修偕行社の皆様におかれては、我が国の発展のため、様々な活動を行ってこられたと承知しています。皆様の様々な活動に対し、防衛大臣として、心からの敬意と感謝を申し上げます。今後とも、皆様お一人おひとりのお力添えをいただければ幸いです。

最後になりますが、陸修偕行社会員並びに御家族の皆様、益々の御健康と御多幸を心より祈念し、私の御挨拶とさせていただきます。